

中期目標の達成状況に関する評価結果

山口大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	5
《本文》	9
《判定結果一覧表》	21

法人の特徴

【山口大学の基本的な目標】

大学の基本的な目標(中期目標前文)

地域の基幹総合大学として、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、明治維新発祥の地に根付く「挑戦と変革の精神」を受け継ぎ、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化していきます。そのために、次の基本的な目標を掲げます。

【教育】

山口大学は、学生と教職員が一体となり、“共育”する大学を作っていきます。「課題探求力」や「チャレンジ精神」などの「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持つ人材育成を行い、社会の高い評価を受けるとともに、在学生や卒業生及び留学生の「誇り」と「信頼」を受ける大学になります。

そのため、学生教育を重視する大学として「育成する人材像」を明確にし、「教育プログラム」を不断に改善・充実して、学士課程教育や大学院教育を充実し、さらに、横断的な学問分野や進展する社会の様々なニーズに対応した新しい学部の設置構想をも視野に入れた改革を進めます。

【研究】

山口大学は、専門分野での学問深化と、分野間の協力で行う総合的な研究によって、人間、社会、自然などの総合的な理解を進める研究、課題を解決する研究、新たな価値創造を目指す研究を推進します。

そのために、自己変革を繰り返しながら戦略的な取り組みを展開し、特徴ある教育研究拠点形成やイノベーション創出機能の強化などを実現するとともに、研究基盤を継続的に強化して多様な研究を促進し、「知の重層的なストック(蓄積)」を形成し、社会と大学との「バリュー・チェーン(価値連鎖)」の形成を目指します。

さらに、研究推進の取り組みと研究評価にもとづく改善を積み重ねることにより、研究において「複数の強みが連鎖的に生まれる大学」を築きます。

【社会連携】

山口大学は、資質の高い教員や優れた医療人材など、様々な社会で活躍できる人材の養成・育成に加え、研究における国際連携の強化、先進医療の地域への提供、生涯学習及び産学連携など、教育、研究、医療、文化及び経済の各方面から、地域社会や国際社会との連携を軸に据えた活動を発展させていきます。

本学は、地域の基幹総合大学として、また、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学に進化することにより、教育・研究の成果を広く社会に提供するとともに、地域社会や国際

社会との連携をかたちにし、社会の発展に寄与します。

以上の基本的な目標の実現のため、山口大学は、大学をめぐる情勢の変化に即応したスピード感のある意思決定と効率的かつ迅速な業務の実施、中長期的な行動計画と財務計画に基づく持続的な経営、社会のニーズに即応した柔軟な学部・研究科等の再編などを念頭に置き大学改革を進めます。

山口大学は、第2期中期目標期間を迎えるにあたり、平成20年2月に「山口大学憲章」に基づき「明日の山口大学ビジョン」を策定して、10年後の山口大学将来像を学内外に示し、第2期中期目標・計画を立案した。第2期の前半は、文部科学大臣から示された「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しについて(平成21年6月)」を受け、ガバナンス改革及び制度改革を積極的に推進し、後半は、ミッションの再定義を踏まえた大学改革と創基200周年事業を展開した。

第2期が始まる平成22年4月には、本学が掲げる「共同・共育・共有精神の涵養」の実現を目指し、キャンパス内の里山に学生、市民及び教職員が憩う場として「教育の丘」及びモニュメント「Gravitation(知の集積)」を創設した。

平成25年度には共通教育(教養教育)の改革を行い、平成26年度には、新学長のもと「大学改革推進会議」を設置して、「山口大学改革プラン」を策定し、ミッションの再定義を踏まえた大学改革を推進した。平成27年度及び平成28年度にかけて、人文・社会科学系学部の一体改革、イノベーション創出人材を育成する理系大学院の再編を実現し、学長のリーダーシップにより、教員ポスト・学生定員・予算・施設の再配分を行った。また、第3期中期目標期間を迎えるにあたり「明日の山口大学ビジョン2015」を策定し、アジアの風を感じる「ダイバーシティ・キャンパス」の創造を目指している。

山口大学は、1815年、長州藩士・上田鳳陽により創設された私塾「山口講堂」を創基と定め、200周年を迎えるにあたり、地域、企業、卒業生及びその関係者との信頼関係を再構築し、教職員が山口大学を再考する機会と位置付けた。「創基200周年記念事業会」を発足して、平成24年度に「創基200周年記念基金」を設立、都市部の拠点として「東京事務所」を設置した。地域とともに山口大学が歩んできた歴史・文化を再考し、未来に繋げるため「基幹シンポジウム」を開催した。また、学生及び教職員が協働して、ホームカミングデーを実施し、卒業生や地域の人々に山口大学の今を伝えた。さらに、学長・理事による企業及び同窓会への広報活動を通し、学生支援の機運が高まり、「創基200周年基金」には、4億8千万円の寄付が集まり、平成28年度から給付型の「七村奨学金」を初めとした学生支援が可能となった。

[個性の伸長に向けた取組]

教育では「大学院課程における英語教育」及び「留学生を含めた全学的な就職支援」、研究では「研究推進体等における研究組織の形成」及び「時間学研究所における研究活動」、地域連携は「地域と連携したイノベーション創出と人材の育成」の取組みがある。

(関連する中期計画番号)

計画1-1-5-1, 計画1-3-3-1, 計画1-3-3-2, 計画2-1-1-1, 計画2-1-1-2, 計画2-2-1-2, 計画2-2-1-3, 計画3-1-1-2

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

山口大学では平成23年1月21日に国内で24機目となるドクターヘリの運用を開始し、約2か月後に発生した東日本大震災では災害派遣医療チームとして派遣、現地の災害対策本部の指示の下、津波等の影響で孤立した患者等の搬送活動に従事した。また、災害派遣医療チーム(2チーム計7名)を速やかに被災地に派遣し、急性期医療支援及び患者搬送を行ったほか、福島県警察本部からの要請により法医学教員2名、日本薬剤師会からの要請により薬剤師1名を派遣した。

国立大学法人の組織及び業務全般の見直しについて(平成21年6月5日、文部科学大臣決定)(抜粋)

2 教育研究、運営等の業務全般の見直し

(2)業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、その他業務運営

①法人のガバナンスの充実

法人本部が各部局等を含めた法人全体をマネジメントできるような仕組みとするよう、法人内部のガバナンスの在り方を検討するよう努めることとする。また、法人の特性を踏まえつつ、学長等の裁量による経費や人員等の配分など、学長のリーダーシップが図れる取組を進めるとともに、法人の運営改善に資するよう、経営協議会における運用の工夫改善や意見の内容及びその法人運営への反映状況などの情報の公表等により、学外者の意見の一層の活用を図るよう努めることとする。

さらに、監事監査や内部監査等の監査結果を運営改善に反映するサイクルの構築を図るよう努めることとする。

②財務内容の改善

各法人は、外部資金の獲得や多様な資金調達による自己収入の増加、管理的経費の一層の抑制等についてさらに努めることとする。

③効果的・効率的な法人運営の推進

効率的な法人運営を行うため、例えば、他の大学との事務の共同実施の推進や、アウトソーシングの推進を図るとともに、農場、演習林、船舶等について、他の大学等との共同利用の推進を図るよう努め、併せて、保有資産の不断の見直し及び不要とされた資産の処分に努めることとする。さらに、既存施設の有効活用、施設の計画的な維持管理の着実な実施等の施設マネジメントの一層の推進に努めることとする。

また、総人件費改革の取組を平成23年度まで着実に継続するとともに、例えば、人員配置の見直しや人事評価結果の活用などにより、組織の活性化及び効果的・効率的な業務運営に努めることとする。

さらに、随意契約について、各法人の見直し計画に基づく取組を着実に実施するとともに、

一般競争入札等により契約を行う場合であっても、特に企画競争等を行う場合には競争性、透明性を確保するなど、随意契約の適正化の推進に努めることとする。併せて、契約手続きの適正性について監事等へのチェックを要請するよう努めることとする。

④国民に対する情報提供の改善

国立大学法人には多額の公的な資金が投入されていること、成果等が社会に還元されるべきものであることを十分認識し、国民に対する説明責任を十分に果たす観点から、各法人の実情や果たしている機能等を利用者の立場に立った国民に分かりやすい内容・形で情報提供するよう努めることとする。

⑤法令遵守体制の充実

経営協議会は審議すべき事項が法定されていることから、法定されている事項を報告事項として扱うことのないようにする等、法令遵守（コンプライアンス）体制を確保するよう努めることとする。

※本報告書で使用する略称（登場順）

- ・AP : アドミッションポリシー
- ・GP : グラジュエーションポリシー（平成20年度、本学が独自に制定し、後に「DP : ディプロマポリシー」に名称変更）
- ・CUM : カリキュラム・マップ……DP(GP)がどの授業でどのように達成されるかの関係を一覧表にしたもの。
- ・CFC : カリキュラム・フローチャート……カリキュラムの年次進行とDP(GP)の関係を流れ図にしたもの。
- ・CP : カリキュラムポリシー
- ・AL : アクティブ・ラーニング
- ・TT : テニユアトラック
- ・GPA : Grade Point Average
- ・GPC : Grade Point Class Average
- ・PBL : Project-Based Learning

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、山口大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		2	5	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		2	2	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	2	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	2	
② 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好	1		1	
(Ⅲ) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			2	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 国際水準の獣医学教育を実施するため、平成 24 年度に鹿児島大学との連携により、相互補完型の教員配置と施設整備を戦略的に推進するため共同獣医学部を設置している。教員組織を平成 24 年度の 32 名体制から平成 27 年度の 42 名体制に拡充し、文部科学省獣医学モデル・コア・カリキュラムに対応する統一教育課程を編成している。また、欧州獣医学教育認証機構（EAEVE）による国際認証の公式訪問診断に必須となる自己評価報告書（SER）の作成等、受審の準備に取り組んでいる。（中期計画 1-2-4-1）

個性の伸長に向けた取組

- 大学院の英語による授業科目は、平成 21 年度の 4 研究科 58 科目から平成 27 年度の 7 研究科 133 科目へ増加している。技術経営研究科では、社会人学生を対象としてマレーシア及びインドネシアでの海外短期研修を実施するとともに、平成 25 年度から秋季入学の外国人留学生の受入を行い、アジアに特化した国際化教育及びグローバルな視野を涵養するための特別プログラムを実施している。また、東・東南アジアの大学とのダブル・ディグリープログラムを推進し、協定校は第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に 2 か国 4 大学から 3 か国 7 大学へ拡大している。（中期計画 1-1-5-1）
- 平成 26 年度から山口大学東京事務所とテレビ会議システムで接続し、首都圏で就職活動を行う学生の相談体制を整備している。また、各学生の就職活動状況を学部と就職支援室でリアルタイムに把握できるシステムを稼働して個別支援に活用している。日本企業への就職を希望する留学生に対しては、求人情報や就職セミナーの開催情報を提供するとともに、平成 27 年度には留学生と企業経営者との交流会を開催している。（中期計画 1-3-3-2）
- 世界水準の研究推進拠点及び地域の課題研究推進拠点の形成を目指し、分野横断的、学際的プロジェクト研究を進める研究推進体制度や、平成 26 年度に研究推進核の形成を目的として実施した新呼び水プロジェクト等に対して、学長裁量経費による支援や博士研究員等の若手研究者の配置による支援を行っている。（中期計画 2-1-1-1）
- 平成 26 年度に、各学部等における先進的な基礎研究や、イノベーション創出につながる研究プロジェクトに対して重点的に事業支援を行い、国際的研究拠点の形成や大学発新産業の創出を目指す先進科学・イノベーション研究センターを設置し、平成 27 年度までに 6 つの研究拠点を認定して産学公連携センターや大学リサーチ・アドミニストレーター室等が重点的に支援している。（中期計画 2-2-1-2）
- 時間学研究所は文理融合の研究を推進し、持続的に学際的な研究成果があがっている。それらの成果は国内外でマスメディアに取り上げられるとともに、シンポジウム等によって一般市民への啓発活動を行っており、平成 23 年度には時間学的学問の確立とその研

究成果の普及啓発活動が評価され、文部科学大臣表彰を受賞している。また、平成 26 年度に所長の公募制を導入し、海外の著名研究者の招へいや時間学国際シンポジウムの開催、モスクワ大学（ロシア）との国際交流協定締結等、国際共同研究拠点化に取り組んでいる。（中期計画 2-2-1-3）

- 山口県及び地域企業と連携して、地域イノベーションの創出に取り組んでおり、文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラムでは山口大学が推進機関として、招へい研究者 2 名を受け入れて研究開発を進め、精密イオンポリッシングシステム等を整備し企業との共用化を図るとともに、技術スタッフによる支援体制を整えている。
（中期計画 3-1-1-2）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 山口大学では平成 23 年 1 月 21 日に国内で 24 機目となるドクターヘリの運用を開始し、約 2 か月後に発生した東日本大震災では災害派遣医療チームとして派遣、現地の災害対策本部の指示の下、津波等の影響で孤立した患者等の搬送活動に従事した。また、災害派遣医療チーム（2 チーム計 7 名）を速やかに被災地に派遣し、急性期医療支援及び患者搬送を行ったほか、福島県警察本部からの要請により法医学教員 2 名、日本薬剤師会からの要請により薬剤師 1 名を派遣した。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、2項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した2項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含み、「おおむね良好」と判定した5項目のうち2項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された2計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○国際化や国際競争力の向上に向けた取組

中期目標（小項目）「国際的視野と実践能力を持ち、国際的に活躍できる学生を育成するための教育研究環境を整備し、本学の国際化や国際競争力の向上を図るための方策を推進する。」について、大学院の英語による授業科目は、平成21年度の4研究科58科目から平成27年度の7研究科133科目へ増加している。技術経営研究科では、社会人学生を対象としてマレーシア及びインドネシアでの海外短期研修を実施するとともに、平成25年度から秋季入学の外国人留学生の受入を行い、アジアに特化した国際化教育及びグローバルな視野を涵養するための特別プログラムを実施している。また、東・東南アジアの大学とのダブル・ディグリープログラムを推進し、協定校は第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に2か国4大学から3か国7大学へ拡大している。（中期計画1-1-5-1）

○秋入学、留学生受入の推進

中期目標（小項目）「外国人留学生の増加を図る方策を推進するとともに、外国人留学生の日本理解と日本語能力を向上させる取り組みを推進する。」について、7研究科で秋季入学を、8学部・7研究科で外国人留学生特別選抜を実施するとともに、アジアを中心に、毎年海外で開催される海外留学生フェアにおいて広報活動等を行っている。これらの取組により、秋季入学者数は平成22年度の17名から平成27年度の61名へ、正規留学生数は平成22年度の218名から平成27年度の252名へ増加している。（中期計画1-1-7-1）

（特色ある点）

○企業等と連携した実践的課題解決学習の開講

中期目標（小項目）「幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実を図るため、学位授与の条件を明確化するとともに、それを確実に達成できる学士課程教育カリキュラムを編成する。」について、平成27年度に設置した国際総合科学部において、3年次までに学んだ文理融合の知識やデザインの理論・方法論等の実践の場として、企業等と連携した実践的課題解決学習「プロジェクト型課題解決研究」の開講を決定しており、体系的な教育課程の構築や連携機関の拡充等、実施に向けた体制整備を行っている。（中期計画1-1-2-3）

○学習成果を定量的に可視化するカリキュラムシステムの導入

中期目標（小項目）「GPの達成を保証するための成績評価法を確立し、実施する。GPの総合的な達成状況や授業の履修状況を把握できるシステムを確立し、意欲的で計画的な履修を促進する。」について、平成27年度に、学修成果を定量的に可視化する山口大学能力基盤型カリキュラムシステム（YU CoB CuS）を導入し、ディプロマ・ポリシーと各授業科目との対応の明確化と修得した能力の可視化を図り、学生が各々の到達度を確認しながら、学修プランを立案できるようにしている。国際総合科学部では、担任教員がYU CoB CuSから出力する履修状況を示したレーダーチャートや、学生自身が作成するリフレクション・シート等を参考に、学生との個別面談指導を行うなど、学生の自己主導型学修を支援している。（中期計画1-1-6-2）

○交換留学準備の推進

中期目標（小項目）「外国人留学生の増加を図る方策を推進するとともに、外国人留学生の日本理解と日本語能力を向上させる取り組みを推進する。」について、平成27年度に設置した国際総合科学部において、国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力及び協働力を養成することを目的として交換留学の準備が進められ、平成27年度までに31大学と協定を締結・更新し、94名分の交換留学枠を確保している。また、留学生への指導方法をテーマとしたファカルティ・

ディベロップメント研修を実施するなど交換留学生の受入に向けた取組も行って
いる。(中期計画 1-1-7-3)

(2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した2項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○他大学との連携による相互バックアップの実施

中期目標(小項目)「ICTを積極的に取り入れ、教育研究環境及び学術情報基盤を総合的に整備し、全学共同利用体制を推進する。」について、地震、台風等の災害や機械の老朽化、故障等のハード障害及び人的トラブルによる情報喪失等に対応するため、平成22年度から実施しているキャンパス間のデータバックアップに加え、これまでの大学間での実証実験を基に、平成27年度から鹿児島大学と連携した公式ウェブサイト等の相互バックアップを行っている。(中期計画 1-2-2-1)

○鹿児島大学との連携による共同獣医学部の設置

中期目標(小項目)「教育の質の向上や改善を図るため、他大学等との連携により教育体制を整備する。」について、国際水準の獣医学教育を実施するため、平成24年度に鹿児島大学との連携により、相互補完型の教員配置と施設整備を戦略的に推進するため共同獣医学部を設置している。教員組織を平成24年度の32名体制から平成27年度の42名体制に拡充し、文部科学省獣医学モデル・コア・カリキュラムに対応する統一教育課程を編成している。また、欧州獣医学教育認証機構(EAEVE)による国際認証の公式訪問診断に必須となる自己評価報告書(SER)の作成等、受審の準備に取り組んでいる。(中期計画 1-2-4-1)

○共同獣医学部におけるEAEVEの認証取得に向けた教育課程の改善

共同獣医学部において、平成24年度に鹿児島大学との共同で当該学部を設置し、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、山口大学では伴侶動物獣医学等、鹿児島大学では産業動物獣医学等を特色とした相互補完型の教員配置を

行い、EAEVE の認証取得を目標として教育課程の改善に取り組んでいる。
(現況分析結果)

(特色ある点)

○情報リテラシー教育の必修化

中期目標(小項目)「ICT を積極的に取り入れ、教育研究環境及び学術情報基盤を総合的に整備し、全学共同利用体制を推進する。」について、平成 25 年度の共通教育の見直しにより、全学生に対し、情報及び情報手段を正しく安全に活用するための知識・技術を身に付けさせる情報リテラシー教育を必修としている。また、学生が自由に利用できるパソコン及びオンデマンドプリンタを設置した情報ラウンジを整備し、ティーチング・アシスタントによる情報機器の利用支援体制を構築するなどの取組を行っている。(中期計画 1-2-2-2)

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由)「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生の自主的・創造的企画の推進

中期目標(小項目)「学生と教職員との密接なコミュニケーションのもと、学生の能力及び個性に応じた学習支援を行い、学士力・社会人力の育成を促進する。」について、学生の自主性や創造力をより引き出すための全学的支援部署である自主活動ルームを設置し、学生の自主的・創造的企画について1件当たり最高100万円の資金援助を行うおもしろプロジェクトを推進しており、延べ69件に支援している。当該プロジェクトは、地域の小中学生へ科学のおもしろさを伝えるプロジェクトを実施するなど、地域の活性化にも貢献している。(中期計画 1-3-1-2)

○就職活動支援体制の整備

中期目標(小項目)「学生が、その能力、適性及び意欲に応じて、主体的に進路を選択できるよう、適切なキャリア支援を行う。」について、平成26年度から山口大学東京事務所とテレビ会議システムで接続し、首都圏で就職活動を行う学生の相談体制を整備している。また、各学生の就職活動状況を学部と就職支援室でリアルタイムに把握できるシステムを稼働して個別支援に活用している。日本

企業への就職を希望する留学生に対しては、求人情報や就職セミナーの開催情報を提供するとともに、平成 27 年度には留学生と企業経営者との交流会を開催している。（中期計画 1-3-3-2）

（特色ある点）

○キャリア教育の推進

中期目標（小項目）「学生が、その能力、適性及び意欲に応じて、主体的に進路を選択できるよう、適切なキャリア支援を行う。」について、平成 23 年度に定めたキャリア教育の基本方針に基づき、平成 25 年度入学者から、キャリア教育科目として 1 年次生対象科目の「知の広場」と、3 年次生対象科目の「キャリア教育」を必修化したほか、業界・企業研究会、講演会、インターンシップ等の支援を行っている。企業等に実施したアンケート調査では、主体的実行力が新卒採用者全体は 5 段階評価で平均約 3.2 であるところ、山口大学卒業生は平均で約 3.8 であるなど、アンケートを実施した 15 の観点すべてで新卒採用者全体の平均を上回っており、企業等の求める能力が高いという結果が出ている。（中期計画 1-3-3-1）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学長裁量経費及び若手研究者の配置による研究プロジェクトの支援

中期目標(小項目)「拠点形成を行う分野及び社会からの要請が高い分野への研究者(博士研究員ポスト等)の重点配置や、研究推進体における組織形成の支援を行うとともに、若手研究者への研究支援の充実を図る。」について、世界水準の研究推進拠点及び地域の課題研究推進拠点の形成を目指し、分野横断的、学際的プロジェクト研究を進める研究推進体制度や、平成26年度に研究推進核の形成を目的として実施した新呼び水プロジェクト等に対して、学長裁量経費による支援や博士研究員等の若手研究者の配置による支援を行っている。(中期計画2-1-1-1)

○やまぐちイノベーション創出推進拠点の設置

中期目標(小項目)「研究用施設・設備及び学術情報基盤を計画的に整備・充実することにより、教員及び大学院生等の研究活動の高度化を支援する。」について、平成22年度に、共同利用装置の設置による地域の中小企業の技術高度化に向けた支援等を目的とするやまぐちイノベーション創出推進拠点を設置し、透過型電子顕微鏡システム等の専門機器30装置を学内外の共同研究及び受託研究の利用に供しており、企業等との共同により商品化2件、企業化2件、地元誘致1件の実績があがっている。また、平成24年度に文部科学省のナノテクノロジープラットフォーム事業の微細加工プラットフォームの実施機関の一つとして採択さ

れ、新たに 13 の研究装置を整備し、研究設備の共同利用体制の充実を図っている。(中期計画 2-1-2-1)

(2) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○6つの研究拠点の認定及び重点的支援

中期目標(小項目)「研究者の自主的な個別研究、地域の特色を活かした研究、学内外及び国内外の研究者の共同によって行うプロジェクト研究などを通じ、世界水準の研究成果を連鎖的・持続的に生み出す。」について、平成26年度に、各学部等における先進的な基礎研究や、イノベーション創出につながる研究プロジェクトに対して重点的に事業支援を行い、国際的研究拠点の形成や大学発新産業の創出を目指す先進科学・イノベーション研究センターを設置し、平成27年度までに6つの研究拠点を認定して産学公連携センターや大学リサーチ・アドミニストレーター室等が重点的に支援している。(中期計画 2-2-1-2)

○時間学的学問の確立

中期目標(小項目)「研究者の自主的な個別研究、地域の特色を活かした研究、学内外及び国内外の研究者の共同によって行うプロジェクト研究などを通じ、世界水準の研究成果を連鎖的・持続的に生み出す。」について、時間学研究所は文理融合の研究を推進し、持続的に学際的な研究成果があがっている。それらの成果は国内外でマスメディアに取り上げられるとともに、シンポジウム等によって一般市民への啓発活動を行っており、平成23年度には時間学的学問の確立とその研究成果の普及啓発活動が評価され、文部科学大臣表彰を受賞している。また、平成26年度に所長の公募制を導入し、海外の著名研究者の招へいや時間学国際シンポジウムの開催、モスクワ大学(ロシア)との国際交流協定締結等、国際共同研究拠点化に取り組んでいる。(中期計画 2-2-1-3)

○学内外への知的財産教育の普及

中期目標(小項目)「研究成果のうち、社会とバリューチェーン形成ができるものを学外へ発信するとともに、地域と大学、産業社会と大学などの本学の有する様々な連携システムを活用して社会還元を進める。」について、大学研究推進

機構では、3センターを設置し、知的財産の活用を図り、イノベーション創出に向けた事業を推進している。知的財産センターでは、平成27年度に文部科学省から教育関係共同利用拠点の認定を受け、知的財産センタースタッフ・ディベロップメントセミナーを開催するなど、学内外への知的財産教育の普及に取り組んでいる。また、技術移転機関と連携し、知的財産の実施料を一定期間無料で開放している。（中期計画 2-2-2-2）

(Ⅲ) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会連携・社会貢献、国際化に関する目標」に関する中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○自治体及び地域企業と連携した地域イノベーションの創出

中期目標（小項目）「地域の様々なセクター（大学、行政機関、民間機関、企業団体、市民団体）などとの連携システムを活用して、地域の文化・経済活動の維持・発展や地域イノベーションを指向する総合的な地域活動を行い、多様な成果を生み出す。」について、山口県及び地域企業と連携して、地域イノベーションの創出に取り組んでおり、文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラムでは山口大学が推進機関として、招へい研究者2名を受け入れて研究開発を進め、精密イオンポリッシングシステム等を整備し企業との共用化を図るとともに、技術スタッフによる支援体制を整えている。（中期計画 3-1-1-2）

○複数大学による大学博物館及び図書館の連携事業の実施

中期目標（小項目）「地域社会との連携・協力を推進し、地域の知の拠点として学術成果情報の発信と支援を行う。」について、平成22年度に梅光学院大学との交換展示を行うとともに、大学の博物館施設の在り方等を問うシンポジウムを開催するなど、複数大学による大学博物館及び図書館の連携事業を行っている。展示には山口大学が保有する学術資産を活用するなど、文化的な地域貢献にも寄与している。また、学術資産の修復・保存事業の一環である『林家文書』の目録データベース作成事業は、国立大学図書館協会が、図書館活動及び図書館・情報

学研究に顕著な業績をあげた個人及びグループに対して表彰する国立大学図書館協会賞（平成 24 年度）を受賞している。（中期計画 3-1-2-2）

（特色ある点）

○学術機関リポジトリの推進

中期目標（小項目）「地域社会との連携・協力を推進し、地域の知の拠点として学術成果情報の発信と支援を行う。」について、山口大学学術機関リポジトリ（YUNOCA）は平成 22 年度から教員データベースと相互リンクするなどの取組により、累計登録件数は、平成 22 年度の約 1 万 7,800 件から平成 27 年度の約 2 万 3,300 件へ向上している。また、山口県内の高等教育機関との共同リポジトリは、各機関のリポジトリ横断検索等、県内大学等 13 機関との連携により学術論文の公開等を行っており、累計登録件数は、平成 24 年度の約 2 万 6,400 件から平成 27 年度の約 3 万 400 件へ向上するなど、学術研究の振興及び社会貢献に取り組んでいる。（中期計画 3-1-2-1）

（2）国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

○重点拠点国及び重点連携大学の選定

中期目標（小項目）「地域との連携を強化しつつ国際協力を推進するとともに、国際的な研究連携の強化のため、重点拠点国及び重点連携大学を定め、組織的かつ包括的な連携活動を展開する」について、研究力向上を目的とする国際連携のため、平成 25 年度に重点拠点国及び重点連携大学選定の基本方針を定め、アジア・太平洋圏を中心に、6 大学を重点連携大学、タイを重点拠点国と選定し、各年度終了後には重点連携大学報告会を開催して研究成果及び今後の展望について意見交換を行うなど、研究活動を推進している。（中期計画 3-2-1-1）

（特色ある点）

○地域の大学、企業、自治体、NPO と連携したネットワークの構築

中期目標（小項目）「地域との連携を強化しつつ国際協力を推進するとともに、国際的な研究連携の強化のため、重点拠点国及び重点連携大学を定め、組織

的かつ包括的な連携活動を展開する。」について、国際協力に関して地域の大学、企業、自治体及び NPO と連携し、山口国際協力の里ネットワーク事業として、国際シンポジウムやセミナーを開催するとともに、平成 25 年度からは中小企業の海外展開を支援する説明会も実施している。また、マレーシア、中国等、アジア 6 か所に設置している海外連携オフィスを中心に、外国人留学生への広報活動を行うとともに、海外同窓会を立ち上げて、卒業した留学生や外国人研究者とのネットワークを形成している。（中期計画 3-2-1-3）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
山口大学の学生受け入れの基本方針を明確にし、各学部の教育・研究の特色を踏まえアドミッションポリシーに応じた学生の受入を推進する。		おおむね良好	
1-1-1-1	入学者の資質及び全国的な入試動向の調査・分析、在学成績等を踏まえて入学者選抜のあり方を検討し、入試方法の改善を行う。	おおむね良好	
幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実を図るため、学位授与の条件を明確化するとともに、それを確実に達成できる学士課程教育カリキュラムを編成する。		おおむね良好	
1-1-2-1	学士力と社会人を育成するために学士課程教育のグレンジーションポリシー（GP）を明確化するとともに、各授業科目が有機的に連携した整合性のあるカリキュラムに再編成する。	良好	
1-1-2-2	シラバスの改善、履修指導の充実、授業外学習時間の確保等の取り組みを進め、単位制度の実質化を行う。	おおむね良好	
○ 1-1-2-3	企業の事業戦略や自治体の政策等の諸課題に対して、解決策を提示できる能力を有する人材を育成する機能を強化するために、企業等と連携した実践的課題解決学習を導入する。	おおむね良好	特色ある点
高等学校と大学との接続の円滑化を図るため、教育方法の改善を推進する。また、学士課程教育の質を維持・向上させるために、情報通信技術（ICT）を活用した教育方法を導入する。		良好	
1-1-3-1	高等学校での履修状況に配慮した導入教育、初年次教育、補習・補完教育などの取り組みを再構築するとともに、ネットワークを介した教材配信及び放送大学コンテンツ等を活用して、教育方法の多様化と改善を進める。	良好	
教育力・研究力に富む高度専門職業人を養成するためのアドミッションポリシー（AP）及びGPを明確にし、それに従ったカリキュラムを編成するとともに、学位授与に至るプロセスを明確にして、大学院教育の実質化を推進する。		おおむね良好	
1-1-4-1	研究科毎にGPを見直し、GPを達成できるようなカリキュラムの再編成を組織的に行う。また、学位授与プロセスを明確にし、それに沿った適切な教育・研究指導を実践するとともに厳格な学位審査を実施する。	おおむね良好	
国際的視野と実践能力を持ち、国際的に活躍できる学生を育成するための教育研究環境を整備し、本学の国際化や国際競争力の向上を図るための方策を推進する。		おおむね良好	
1-1-5-1	修士・博士課程の学生に対し英語による授業科目を順次拡大していくとともに学習支援環境を整備し、英語実践能力、国際的研究能力を向上させる。	良好	優れた点
1-1-5-2	日本人学生の海外留学・体験のための取り組み及び国際的に活躍できる人材育成を促進する。	おおむね良好	

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	GPの達成を保証するための成績評価法を確立し、実施する。GPの総合的な達成状況や授業の履修状況を把握できるシステムを確立し、意欲的で計画的な履修を促進する。	おおむね良好	
○	1-1-6-1 授業毎に、GPの各項目に対応した到達目標と評価基準をシラバスに明記し、それに基づいて成績評価を実施するとともに、到達目標と評価基準の適切性について検証と改善を行う。	おおむね良好	
	1-1-6-2 全学的な学生の自己主導型学習を支援するとともに、教育の質保証を行うため、新たに学習成果を定量的に可視化するシステムの構築や体制を整備し、教育機能の強化を図る。また、本システムを第3期中期目標期間初頭までに順次全学部において導入する。	おおむね良好	特色ある点
	1-1-6-3 学士課程において、成績票にGPA(Grade Point Average)を表示し、計画的な履修に役立てるとともに、履修指導のデータとして活用する。また、各開設科目GPC(GradePointClassAverage)などの成績データを学内で参照し合い、到達目標や評価基準の設定の指針とする。	おおむね良好	
	1-1-6-4 GPの達成状況を学生自身が確認できるポートフォリオシステムを段階的に導入する。	おおむね良好	
外国人留学生の増加を図る方策を推進するとともに、外国人留学生の日本理解と日本語能力を向上させる取り組みを推進する。		良好	
○	1-1-7-1 留学生に対する大学院の秋季入学制度を拡充していくとともに、留学生宿舎などの整備、留学生に対する経済的支援方策を順次拡大することにより、留学生を段階的に増加させる。	良好	優れた点
	1-1-7-2 留学生の日本理解及び日本語能力を高めるため、渡日前支援ばかりでなく渡日後の日本語教育を多様化するとともに、日本人学生及び地域との交流事業を充実させる。	おおむね良好	
	1-1-7-3 グローバル人材を育成する国際総合科学部を設置し、海外協定大学との交換留学を平成28年度から本格実施するための体制を整備し、海外留学や海外インターンシップに係る制度設計・構築を行う。	良好	特色ある点
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
学長のリーダーシップのもと、全学的な視点から戦略的・計画的な教員配置を行う。		おおむね良好	
1-2-1-1	学長裁量による教員ポストを学部、研究科あるいは研究施設において戦略的重点分野や新分野の教育研究に携わる教員の任用のために配置する。	おおむね良好	
	学長のリーダーシップによる全学的な教学マネジメントの強化を図るため、学習データを組織的に統計分析するための教学IR組織を整備する。	おおむね良好	
ICTを積極的に取り入れ、教育研究環境及び学術情報基盤を総合的に整備し、全学共同利用体制を推進する。		良好	
1-2-2-1	先進的なICT環境基盤を整備・充実し、eラーニング教材やデジタルコンテンツ等教育教材のハード及びソフト両面のインフラ整備を行う。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	1-2-2-2	学生による情報技術支援の体制を強化するとともに、情報教育環境を整備・充実させる。	良好	特色ある点
本学の教員が自主的・自律的・日常的に教育改善に取り組む体制を整えるとともに、組織的なFD活動を促進・支援することにより、FD活動の実質化を推進する。			おおむね良好	
	1-2-3-1	非常勤講師を含む本学の教員は日常的に授業改善を行うとともに、全学、研究科、学部、学科、コース、講座、共通教育実施組織等の組織的なFD活動を展開し、情報を共有することにより、教育力向上を進める。	おおむね良好	
	1-2-3-2	教員、職員、TAが一体となったFD・SD活動を実施することにより、学生に対する支援を強化する。	おおむね良好	
教育の質の向上や改善を図るため、他大学等との連携により教育体制を整備する。			良好	
○	1-2-4-1	獣医学教育の改善・充実を図るため、北海道大学、帯広畜産大学、鹿児島大学との連携による教育体制を構築し、欧米水準の獣医学教育の実現に取り組む。	良好	優れた点
③ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
学生と教職員との密接なコミュニケーションのもと、学生の能力及び個性に応じた学習支援を行い、学士力・社会人力の育成を促進する。			良好	
	1-3-1-1	学生の自発的な学習を支援するために学生参加型の教育を実践することにより、学士力・社会人力を養成する。また、教職員による履修指導等の充実やTAによる学習支援を行う。	おおむね良好	
	1-3-1-2	学生の学内外における自主的な市民活動や課外活動を支援するとともに、キャリア教育など多様な学習支援を行う。	良好	優れた点
学生の健康を守り、保持・増進させるためのメンタルヘルス及びヘルスプロモーション支援体制を維持・充実するとともに、充実した学生生活を営めるよう相談及び支援を行う。			おおむね良好	
	1-3-2-1	保健管理センターを中心に、学生相談窓口と専門家が連携して、学生生活及び健康管理に関する問題点の早期発見と改善に向けた支援を行う。また、教職員の学生支援に関する意識啓発活動を進め、相談・支援のサービスを向上させる。	おおむね良好	
	1-3-2-2	福利厚生施設の整備等、学生生活環境の充実を図るとともに、経済的支援を継続的に実施する。	おおむね良好	
学生が、その能力、適性及び意欲に応じて、主体的に進路を選択できるよう、適切なキャリア支援を行う。			おおむね良好	
	1-3-3-1	大学入学後の早期から学習する意義や目的を明確化させるために、インターンシップやキャリアパスに関する教育を実施する。	おおむね良好	特色ある点
	1-3-3-2	全学的な就職支援体制をさらに充実するとともに、国内での就職を希望する留学生に対する就職支援活動についても充実させる。	良好	優れた点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
拠点形成を行う分野及び社会からの要請が高い分野への研究者（博士研究員ポスト等）の重点配置や、研究推進体における組織形成の支援を行うとともに、若手研究者への研究支援の充実を図る。		良好	
2-1-1-1	学長のリーダーシップのもとに、拠点形成を目指す特定分野に対して、期限付き研究者(博士研究員ポスト等)の重点配置を行う。	良好	優れた点
2-1-1-2	第Ⅱ期研究推進体（平成21年度～）で学際領域をキーワードとする推進体に対しては、新しい研究組織の形成を推進する。	おおむね良好	
2-1-1-3	持続的に世界水準の研究成果を生み出す基盤強化のため、若手研究者に特化した研究支援施策を充実する。	おおむね良好	
研究用施設・設備及び学術情報基盤を計画的に整備・充実することにより、教員及び大学院生等の研究活動の高度化を支援する。		おおむね良好	
2-1-2-1	設備整備に関する中長期マスタープランに基づく計画的な研究設備の整備を進めるとともに、時代の要請に則した設備整備を行う。また、学内外に対する共同利用についても推進していく。	良好	優れた点
2-1-2-2	研究活動に必要な電子ジャーナルや学術情報データベース並びに人文社会科学系の研究用基盤資料などを継続的に整備し、有効利用に向けた取り組みを推進する。	おおむね良好	
大学として組織的な研究支援を行う研究者や研究グループに対しては、国際的な通用性の観点を取り入れた評価方法を導入し、研究活動の改善を図る。		おおむね良好	
2-1-3-1	研究支援を受ける特任研究者（テニュアトラック研究者も含む）、研究推進体等に対しては、研究成果及び今後の研究の発展性などを点数化し、改善方策等の提示が可能な評価を定期的に行う。	おおむね良好	
② 研究水準及び研究の成果等に関する目標		良好	
研究者の自主的な個別研究、地域の特色を活かした研究、学内外及び国内外の研究者の共同によって行うプロジェクト研究などを通じ、世界水準の研究成果を連鎖的・持続的に生み出す。		非常に優れている	
2-2-1-1	山口大学では、①低炭素社会実現を目指す研究、②ライフサイエンス・医療分野のイノベーション創出を目指す研究、③社会と社会を構成する人の持続的発展・発達に関連する研究において、世界水準の研究成果が連鎖的に生み出されるように、研究者の創意や自発性に基づく研究とプロジェクト型研究を推進する。	良好	
2-2-1-2	優れた研究成果に基づいて行う、学内外及び国内外の研究者が共同で行うプロジェクト型研究の推進のために、「先進科学・イノベーション研究センター（仮称）」の設置などの施策により、研究推進核を形成する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
2-2-1-3	山口大学の特徴ある研究領域である「時間学」の国際的な展開を図るため、当該分野における国内唯一の研究所である「時間学研究所」の国際活動を強化し国際的な研究拠点化への発展を図る。		非常に優れている	優れた点
研究成果のうち、社会とバリューチェーン形成ができるものを学外へ発信するとともに、地域と大学、産業社会と大学などの本学の有する様々な連携システムを活用して社会還元を進める。			おおむね良好	
2-2-2-1	学外への研究成果の「見える化」を図る研究成果広報誌を定期的に発刊し、社会や読者の要望に応える活動を展開する。		おおむね良好	
2-2-2-2	大学の研究成果にもとづく知的財産の活用を図り、国内外の産業界との間で知的創造サイクルの形成を進める。		良好	優れた点
(Ⅲ) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標			おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標			おおむね良好	
地域の様々なセクター（大学、行政機関、民間機関、企業団体、市民団体）などとの連携システムを活用して、地域の文化・経済活動の維持・発展や地域イノベーションを指向する総合的な地域活動を行い、多様な成果を生み出す。			おおむね良好	
3-1-1-1	地域の自治体、市民団体、博物館、企業、公私立大学等との連携体制を強化し、学内外の人材交流の機会を拡大させるとともに、多様な講座事業、連携協働事業、地域活性化支援事業を推進する。		おおむね良好	
3-1-1-2	地域発イノベーション創出に資する科学技術イノベーション人材の育成に取り組むとともに、地域の様々なセクターで機能する連携システムを活用して、地域の文化・経済活動の維持・発展や地域イノベーションを指向する総合的な地域活動を行い、多様な成果を生み出す。		良好	優れた点
3-1-1-3	教員免許状更新講習に係るニーズに応えるため、学内での教員免許状更新講習の実施体制・方法を確立するとともに、他大学や地方自治体と連携した取り組みを推進する。		おおむね良好	
地域社会との連携・協力を推進し、地域の知の拠点として学術成果情報の発信と支援を行う。			おおむね良好	
3-1-2-1	大学で生産される学術成果（論文等）を電子的に保存し、学内外へ情報発信する学術機関リポジトリ事業を継続的に展開するとともに、地域の大学との連携による共同リポジトリ事業を進める。		おおむね良好	特色ある点
3-1-2-2	大学情報機構（図書館、メディア基盤センター及び埋蔵文化財資料館）は、地域の教育関連施設との連携を強化し、ICTを活用した文化的な地域貢献活動の拡充を図るとともに、大学が所蔵する貴重な学術資産の系統的な保存及び利活用を図る事業を推進する。		良好	優れた点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 国際化に関する目標		おおむね良好	
地域との連携を強化しつつ国際協力を推進するとともに、国際的な研究連携の強化のため、重点拠点国及び重点連携大学を定め、組織的かつ包括的な連携活動を展開する。		おおむね良好	
3-2-1-1	アジア・太平洋圏を中心とした国際的な研究連携強化を実施する重点パートナー大学を定め、組織的かつ包括的な国際研究連携事業を推進する。	良好	優れた点
3-2-1-2	国際化を推進するための、諸手続のワン・ストップ・サービス化を図る。	おおむね良好	
3-2-1-3	国際協力・国際貢献につながる「『国際協力の里』推進体」（仮称）を構築し、諸外国（主に発展途上国）の学術交流協定大学等や元留学生等からのニーズ情報を収集し、企業・自治体・JICA等との連携・協力を進める。	おおむね良好	特色ある点

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>獣医学教育の改善・充実を図ることを目指した計画を進めており、鹿児島大学との共同獣医学部の設置や教員組織の拡充等に取り組んでいる。文部科学省の「獣医学モデル・コア・カリキュラム」に対応する統一教育課程を編成するとともに、地域特性のある教材開発や300ケージ以上の実験動物の飼育が可能かつ動物福祉に配慮した、国際認証の取得にも対応する先端実験動物施設の整備を実施している。また、欧州獣医学教育認証機構（EAEVE）による国際認証の公式事前診断に必須となる自己評価報告書（SER）の作成等、受審の準備に取り組んでいる。</p>
(2)	<p>山口県内の自治体や企業等と連携した実践的課題解決学習や学生の長期海外留学を必修化した国際総合科学部の設置を改革のエンジンとした全学的教育改革を目指した計画を進めている。平成27年度に国際総合科学部を設置し、学習成果を可視化する山口大学能力基盤型カリキュラムシステム（YU CoB CuS）の導入により、学生が各々の到達度を確認しながら自己主導型学修を行うための体制を整備している。また、特徴的な教育の取組である長期海外留学実施及びプロジェクト型課題解決研究の実施に向け、海外派遣先大学・プロジェクト連携機関の拡充等の整備を進めている。</p>